

この数字、お信じになりますか？でも、本当です！

'16年5月

'15年度即アップコースの成果について

志学館セミナー
中学部

志学館では、昨年の夏期講習より理科・社会を中心に即アップミラクル(最強学習法)を本格導入し、即アップコースを開講いたしました。期中からの導入・開講ということもあって、本当に短い期間でしたが、下記のように目を瞠るような結果を出すことができました。

ここに改めて、コース受講者の成績アップとその成果につきまして、偏差値(理科・社会)の向上を中心に報告いたします。コース受講者の定期考査の成績向上につきましては、昨年7月以降の月次報告に同封いたしました「1(2)学期中間(期末)考査の結果のお知らせ」をご覧ください。ホームページにも掲載しています。

	社				理				
	6月	→	11月		6月	→	11月		
多田中女子	50.6	→	60.8(9月)	10.2	多田中男子	40.5	→	58.0	17.5
多田中男子	55.3	→	59.1(9月)	3.8	多田中男子	41.1	→	52.4(10月)	11.3
東谷中男子	57.3	→	60.5	3.2	東谷中男子	46.4	→	59.1	12.7
東谷中男子	62.0	→	65.8	3.8	東谷中男子	45.8	→	54.0	8.2
多田中男子	44.3	→	49.9	5.6	多田中男子	44.7	→	60.2	15.5
明峰中男子	55.5	→	64.9	9.4	明峰中男子	53.0	→	61.3	8.3
池田中男子	50.0	→	61.0	11.0	多田中女子	51.1	→	55.7	4.6
多田中女子	43.3	→	57.9(10月)	14.6	多田中男子	43.5	→	63.0	19.5
明峰中男子	51.6	→	62.9	11.3	明峰中男子	43.5	→	46.7	3.2
多田中女子	34.4	→	39.3(10月)	4.9	東谷中男子	40.5	→	43.9	3.4
					多田中女子	36.4	→	41.7	5.3

※偏差値は五ツ木模試をベースに、即アップコース開講前の昨年6月の模試結果と、最終の11月実施の模試結果を比較して増減を表示しています(9月または10月の模試で急激に伸びて、その後高止まりした生徒につきましては9月、10月までのデータで増減を表示しました)。

●偏差値は、そう簡単に上がるものではありません。模試現場で失敗して一気に10ポイントほど下がることはあっても、1年間にせいぜい5～6ポイントも上がればいいところです。ご覧のように、理科・社会とも10ポイントを越える生徒が散見されますが、4ヵ月に満たない短期間でこれほどの成績の伸びを見せるのは、「驚異的」等の形容を飛び越して、「異様なほどの伸び」といってよいと思います。実際、私たちもびっくりしました。この結果、コース受講者のほとんどが理科・社会の偏差値を上げ、それが5教科トータルの偏差値を押し上げて、ワンランク上の志望校の合格ラインにかかるという結果になりました。そして、中学部卒業生の約80%が、緑台をはじめ公立高校の上・中位校と私立の難関・有力進学校に進学するという驚くべき進学実績を叩き出しました。この勝ちパターンは、今後は志学館のお家芸になることでしょう。

ただ、3ポイント～4ポイントの伸びにとどまった生徒もいます。これらの生徒たちは、次の原因が考えられます。

- ① 元々理科・社会が苦手であったにもかかわらず、1・2年次は英数のみの受講で、中3の夏期講習から理・社を受講したものの、基礎基本を身に付けるのに手間取り(実際、私立入試の直前になっても中1の地理が終わらない生徒がいました!）、思うようにカリキュラムを消化できなかったこと。
- ② 夏期講習において、目標の100時間の演習をクリアできず、60時間前後の演習量にとどまり、9月以降の追い込みの基礎を築けなかったこと。また9月以降も欠席が目立ったこと。

要するに、時間さえあれば解決できた問題ばかりです。

●入試は英数では決まりません。多くの場合、国・理・社の出来が合否を分けます。公立入試では特にそうです。とりわけ中3の皆さんは受験学年で、時間との競争です。少しでも早くスタートした生徒が断然有利であり、実際、そんな生徒たちが志望校の合格ラインを突破していくのです。即アップコースの受講をお考えの皆さんは、ご検討をお急ぎください。皆さんは、理科・社会で志望校の5教科偏差値を上回る自信がありますか？時間には限りがあります。入試の直前になっても、まだ中1や中2の範囲が終わらない・・・これではどうしようもありません。皆さんは、自分の能力や可能性を100%出し切った上で入試に臨みたい、そうお考えにはなりませんか？